

(該当するものを○で囲むこと。)

1 上肢機能障害

ア 両上肢機能障害

<ひも結びテスト結果>

1 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

2 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

3 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

4 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

5 度目の 1 分間 \_\_\_\_\_ 本

計 \_\_\_\_\_ 本

イ 一上肢機能障害

<5動作の能力テスト結果>

a 封筒をはさみで切る時に固定する。 ( ・可能 ・不可能 )

b 財布からコインを出す。 ( ・可能 ・不可能 )

c 傘を差す。 ( ・可能 ・不可能 )

d 健側のつめを切る。 ( ・可能 ・不可能 )

e 健側のそで口のボタンを留める。 ( ・可能 ・不可能 )

2 移動機能障害

<下肢・体幹機能評価結果>

a 伝い歩きをする。 ( ・可能 ・不可能 )

b 支持なしで立位を保持し、その後m歩行する。 ( ・可能 ・不可能 )

c いすから立ち上がり10m歩行し、再びいすに

座る。 \_\_\_\_\_ 秒

d 50cmの幅の範囲内を直線歩行する。 ( ・可能 ・不可能 )

e 足を開き、しゃがみこんで再び立ち上がる。 ( ・可能 ・不可能 )

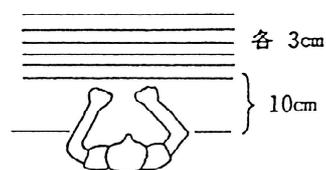
(注意) この様式は、脳原性運動機能障害及び乳幼児期に発現した障害によって脳性麻痺と類似の症状を呈する者で、肢体不自由一般の測定方法を用いることが著しく不利な場合に適用する。

(備考) 上肢機能テストの具体的方法

ア ひも結びテスト

事務用とじひも（おおむね4 3 cm規格のもの）を使用する。

- ① とじひもを机の上、被験者前方に図のようび置き並べる。
- ② 被験者は手前のひもから順にひもの両端をつまんで、軽くひと結びする。



注1 上肢を体や机に押しつけてはいけない。

- 2 手を机上に浮かして結ぶこと。
- ③ 結び目の位置は問わない。
- ④ ひもが落ちたり、位置から外れたときは検査担当者が戻す。
- ⑤ ひもは検査担当者が随時補充する。
- ⑥ 連続して5分間行っても、休み時間を置いて5回行ってもよい。

イ 5動作の能力テスト

- a 封筒をはさみで切る時に固定する。

患手で封筒をテーブル上に固定し、健手ではさみを用い封筒を切る。

患手を健手で持って封筒の上に乗せてもよい。封筒の切る部分をテーブルの端から出してもよい。はさみはどのようなものを用いてもよい。

- b 財布からコインを出す。

財布を患手で持ち、空中に支え（テーブル面上ではなく）、健手でコインを出す。ジッパーを開けて閉めることも含む。

- c 傘を差す。

開いている傘を空中で支え、10秒間以上まっすぐ支えている。立位でなく座位のままでよい。肩に担いではいけない。

- d 健側のつめを切る。

大きめのつめ切り（約10cm）で特別の細工のないものを患手で持って行う。

- e 健側のそで口のボタンを留める。

のりの効いていないワイシャツを健肢にそでだけ通し、患手でそで口のボタンを掛ける。女性の被験者の場合も男性用ワイシャツを用いる。